



関西医科大学

KANSAI MEDICAL UNIVERSITY

教育センター

CENTER FOR HEALTH PROFESSIONS EDUCATION

※本資料内容の二次利用および

無断転載・配布を禁止します

2021年度 DP達成度の状況 (主観的DP達成度)

分析対象者：学修時間・学修行動実態調査 691/752名
卒業時調査 91/100名
卒業後調査 (卒後1・2・10年目) 66/216名
卒業生勤務先アンケート 33/50名

目次

1. 各調査の回答者数と回収率 p.1
2. 各調査でのDP達成度比較 p.2
3. 在学時～卒業後と勤務先のDP達成度評価 . . . p.3-5

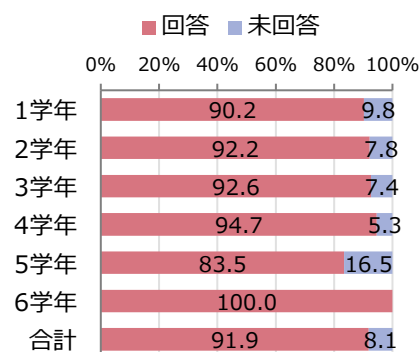
作成日：2022年 9月 21日

担当：教育センターIR部門

各調査の回答者数と回収率

2021年度 学修時間・学修行動実態調査（在学生）

	回答者数	対象者数	回収率	調査実施時期
1学年	120	133	90.2%	2022/01/18~2022/02/13
2学年	118	128	92.2%	2022/01/18~2022/02/13
3学年	113	122	92.6%	2022/01/18~2022/02/13
4学年	124	131	94.7%	2022/01/05~2022/01/16
5学年	111	133	83.5%	2021/12/01~2022/02/13
6学年	105	105	100.0%	2021/10/25~2021/12/24
合計	691	752	91.9%	2021/10/25~2022/02/13

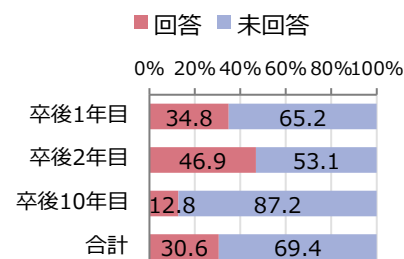


2021年度 卒業時調査（6学年・卒業時）

	回答者数	対象者数	回収率	調査実施時期
卒業生	91	100	91.0%	2022/01/25~2022/03/02

2021年度 卒業後調査（卒後1・2・10年目）

	回答者数	対象者数	回収率	調査実施時期
卒後1年目	23	66	34.8%	2022/03/18~2022/05/31
卒後2年目	30	64	46.9%	2022/03/18~2022/05/31
卒後10年目	11	86	12.8%	2022/04/20~2022/07/15
合計	66	216	30.6%	2022/03/18~2022/07/15



※合計の回答者数には卒後年数未回答者2名を含めている。

※卒後1年目、2年目は本学附属病院勤務の研修医および同窓会名簿よりアンケートを送付した。

卒後10年目は同窓会を通じてアンケートを送付した。

2021年度 卒業生勤務先アンケート

	回答者数	対象者数	回収率	平均卒後年数	調査実施時期
勤務先評価	33	50	66.0%	32.9年	2022/04/22~2022/05/31

※学外施設の本学臨床教授を対象にアンケートへの回答を依頼した。

なお、回答者の内、関西医科大学出身者は39.4%であった。

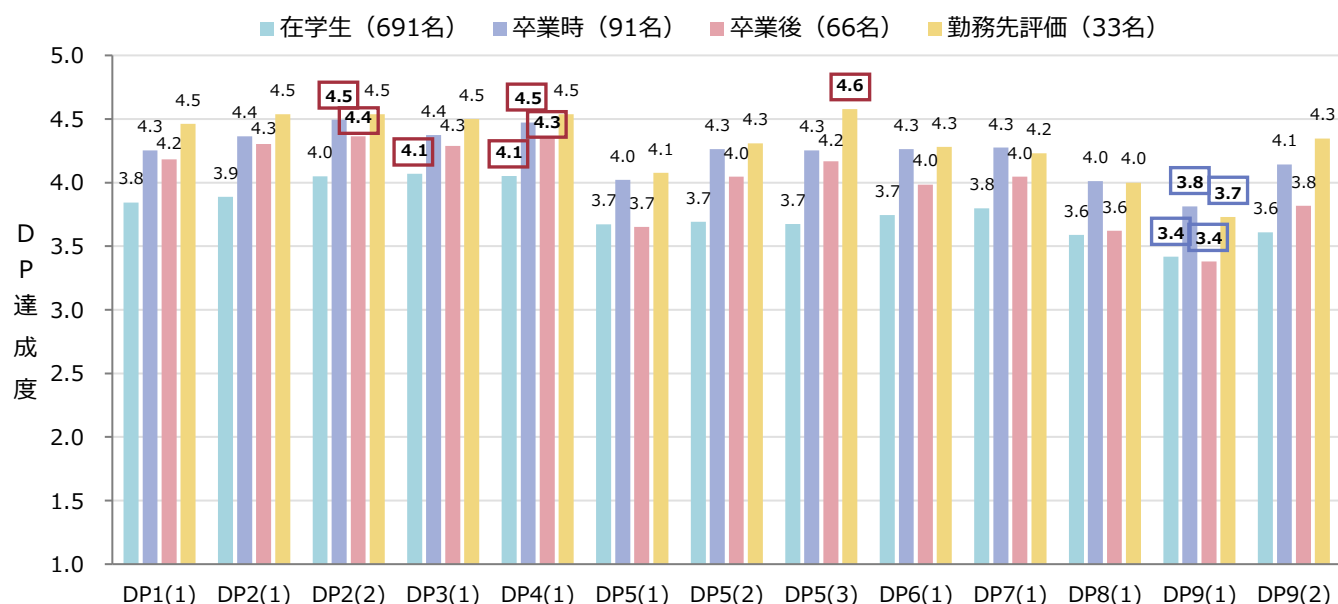
各調査でのDP達成度比較

関西医科大学ディプロマポリシー

No.	大項目	小項目	DP項目内容
1	医療人としての人間性	DP1(1)	慈しみ・めぐみ・愛を心の規範として豊かな人間性を身につける。
2	プロフェッショナリズム・倫理観	DP2(1)	医師としての職責を自覚し、倫理観・使命感・責任感を涵養し、省察的態度をもって行動ができる。
		DP2(2)	法令や社会的規範を遵守し、責任ある社会人として行動ができる。
3	コミュニケーション能力	DP3(1)	コミュニケーション能力を持ち、患者・家族・同僚と良好な人間関係を築くことができる。
4	患者中心・共感の姿勢	DP4(1)	共感的姿勢を持ち、患者の立場になって行動する態度を身につける。
5	医学的知識・技能	DP5(1)	国際的・社会的に貢献できる幅広い教養、特定分野にとらわれない医学的知識を修得する。
		DP5(2)	根拠に基づいた医療を基盤とする臨床推論を実践できる。
		DP5(3)	良質で安全な医療に立脚した基本的診療能力・技能を修得する。
6	科学的思考・問題解決能力	DP6(1)	科学的な観察力・思考力・表現力を身につけ、自ら問題を解決することができる。
7	自己主導型学習・生涯学習	DP7(1)	自己主導型学習を実践し、向上心を持ち生涯にわたり学習を継続する姿勢を身につける。
8	多職種連携	DP8(1)	リーダーシップを発揮し、多職種連携による医療・研究を実践できる。
9	国際的視野・地域医療	DP9(1)	国際的視野を持ち、医療人として国際社会に貢献できる。
		DP9(2)	地域における保健・医療・福祉を理解し、医療人として地域社会に貢献できる。

在学生、卒業時、卒業後のDP達成度自己評価および勤務先DP達成度評価

※学修実態調査（在学生）は1（達成できていない）～5（達成できた）、卒業時調査は1（到達できていない）～5（十分に到達できた）、卒業後調査では1（該当しない）～5（該当する）で到達目標の達成度を自己評価、勤務先アンケートでは勤務中の「本学卒業生の医師」について1（該当しない）～5（該当する）で評価。

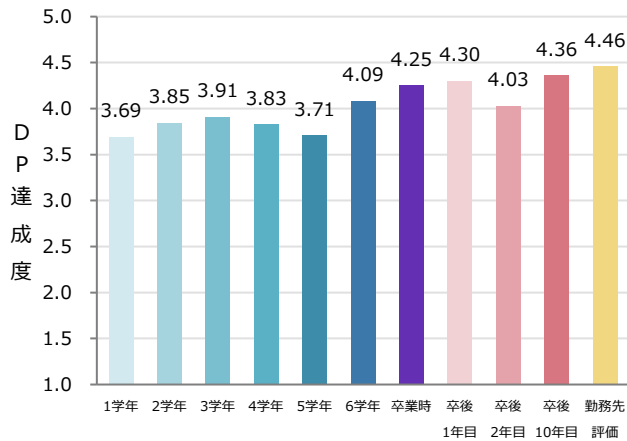


まとめ

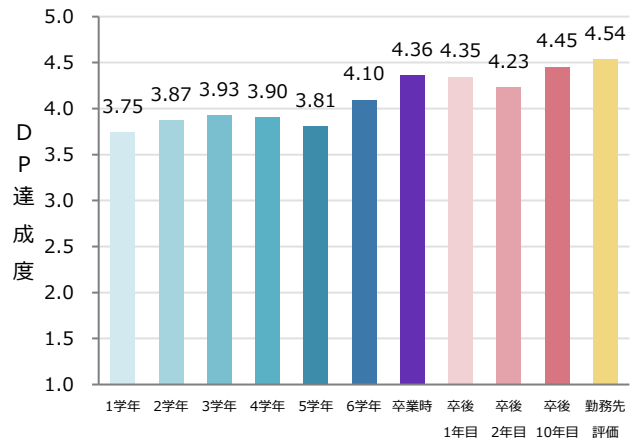
- 達成度評価が高い項目：在学生・卒業時・卒業後の自己評価ではDP2(2)「法令や社会的規範を遵守し、責任ある社会人として行動ができる」、DP4(1)「共感的姿勢を持ち、患者の立場になって行動する態度を身につける。」が高い。その他、DP3(1)「コミュニケーション能力～」も高い。勤務先評価ではDP5(3)「良質で安全な医療に立脚した基本的診療能力・技能を修得する。」が最も高い。
- 達成度評価が低い項目：DP9(1)「国際的視野を持ち、医療人として国際社会に貢献できる」は在学生～卒業後まで一貫して評価が最も低く、勤務先評価も最も低い。その他、DP5(1)、DP8(1)も低い。

在学时～卒業後と勤務先のDP達成度評価

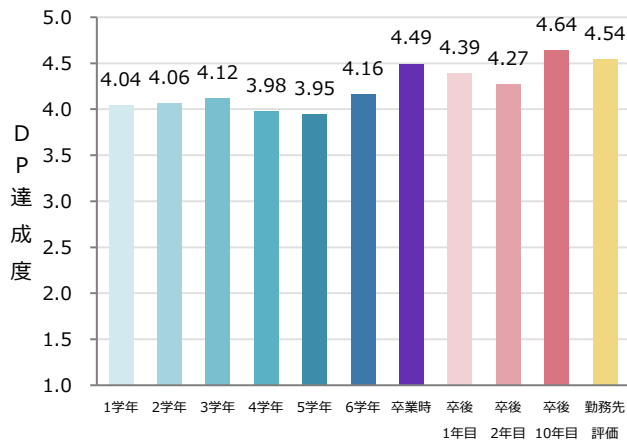
DP1(1) 慈しみ・めぐみ・愛を心の規範として豊かな人間性を身につける。



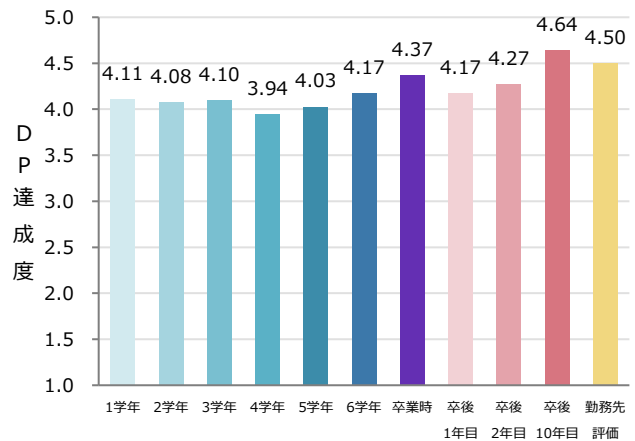
DP2(1) 医師としての職責を自覚し、倫理観・使命感・責任感を涵養し、省察的態度をもって行動ができる。



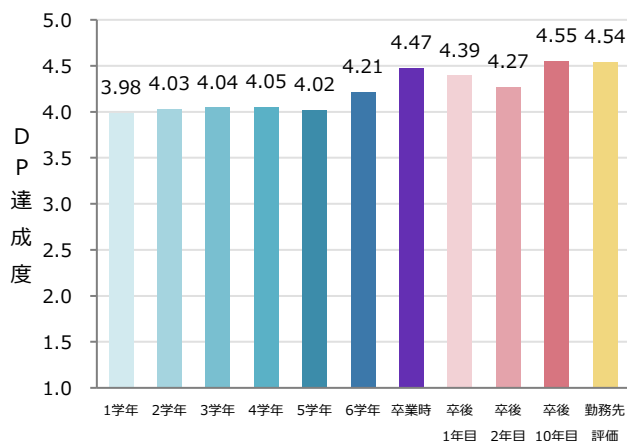
DP2(2) 法令や社会的規範を遵守し、責任ある社会人として行動ができる。



DP3(1) コミュニケーション能力を持ち、患者・家族・同僚と良好な人間関係を築くことができる。

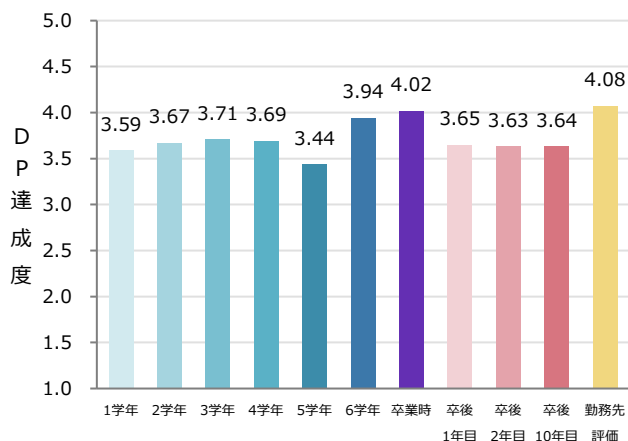


DP4(1) 共感的姿勢を持ち、患者の立場になって行動する態度を身につける。

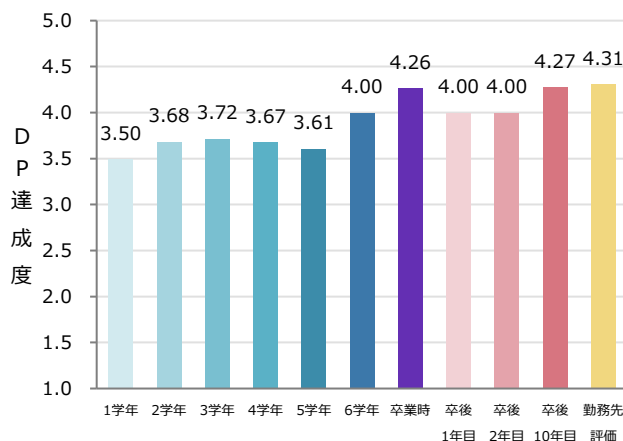


在学时～卒業後と勤務先のDP達成度評価

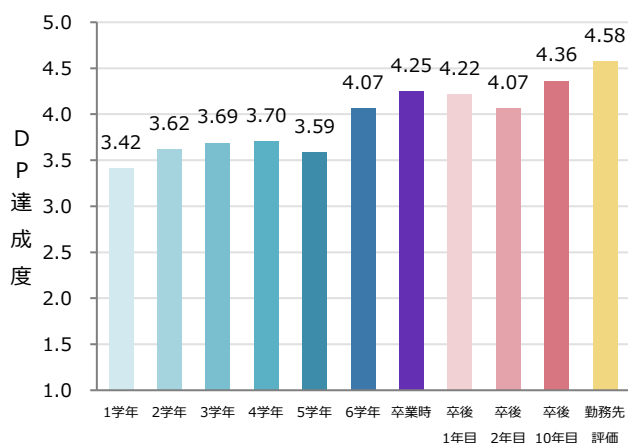
DP5(1) 国際的・社会的に貢献できる幅広い教養、特定分野にとらわれない医学的知識を修得する。



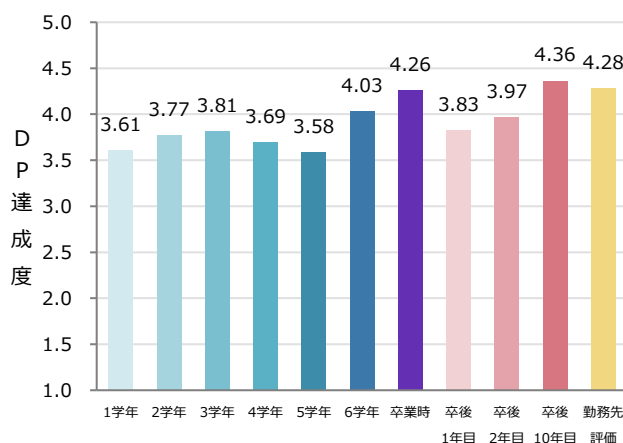
DP5(2) 根拠に基づいた医療を基盤とする臨床推論を実践できる。



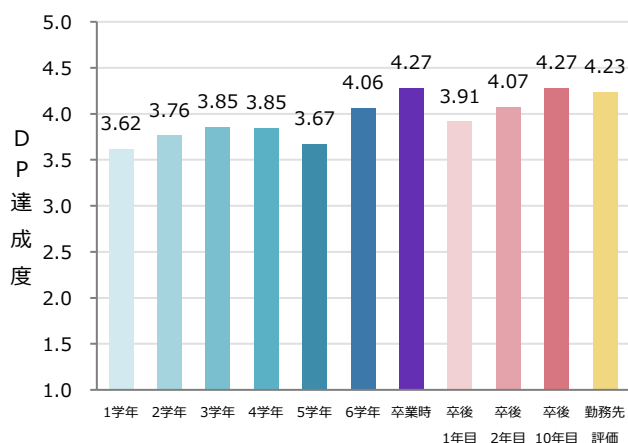
DP5(3) 良質で安全な医療に立脚した基本的診療能力・技能を修得する。



DP6(1) 科学的な観察力・思考力・表現力を身につけ、自ら問題を解決することができる。

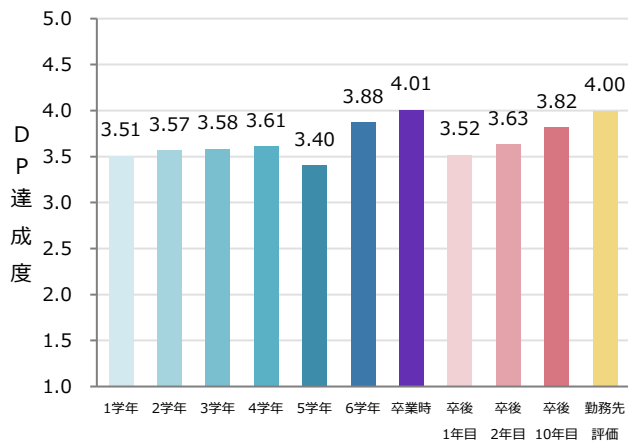


DP7(1) 自己主導型学習を実践し、向上心を持ち生涯にわたり学習を継続する姿勢を身につける。

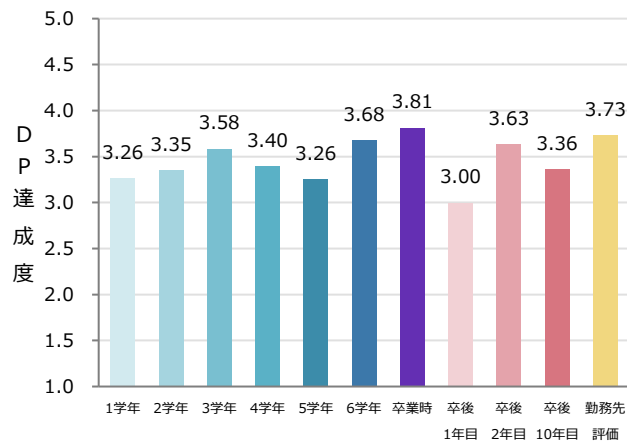


在学时～卒業後と勤務先のDP達成度評価

DP8(1) リーダーシップを発揮し、多職種連携による医療・研究を実践できる。



DP9(1) 国際的視野を持ち、医療人として国際社会に貢献できる。



DP9(2) 地域における保健・医療・福祉を理解し、医療人として地域社会に貢献できる。

